

健康心理アセスメントの新たな可能性

企画者	鈴木伸一（早稲田大学）・森和代（桜美林大学）
司会者	鈴木伸一（早稲田大学）
話題提供者	竹林由武（福島県立医科大学）
話題提供者	国里愛彦（専修大学）
話題提供者	山本哲也（徳島大学）
指定討論者	島井哲志（関西福祉科学大学）

企画趣旨

健康の概念は、人間生活への価値観の多様性の拡大とともに変遷してきている。また、心身の健康状態やウェルビーイングのアセスメント手法やその評価の視点も生物・心理・社会学的研究の発展とともに新たなアプローチが提案されている。そこで本シンポジウムでは、健康心理学アセスメントの新たな可能性として、医療経済学、ベイズ統計学、神経科学の各領域で先進的な研究をされている先生方にご登壇いただき、最新の動向をご紹介いただくとともに、参加者の先生方と健康心理学アセスメントの新たな展開について議論したい。

1. 医療経済から見た新たな健康アセスメントとその評価

話題提供者 竹林由武（福島県立医科大学）

本邦における精神疾患の社会的コストは12兆円、うつ病に限っても1.3兆円と推計されており、精神的な不調に起因する生活の支障は社会に甚大な影響をもたらす。医療費の財源の多くは税金であり、効率的な使用が求められるため、費用対効果といった医療経済的評価が介入法を選択するための重要な指針となる。近年、精神疾患や精神的健康の不調に対する種々の心理学的介入法は、症状等の主要なアウトカムの改善の程度だけではなく、医療経済的な観点も加味して有効性が検討されてきている。本発表では、医療経済的評価の手法を概観した上で、健康心理学と関わり深い認知・行動論的介入やポジティブ心理学的介入に関する医療経済評価の知見を批判的に吟味する。

2. ベイズ統計から見た新たな健康アセスメントとその評価

話題提供者 国里愛彦（専修大学）

この数年で、ベイズ統計学を用いた研究報告が増えてきている。ベイズ統計学は、従来の頻度論統計学にはない利点があるが、その実用の難しさからあまり活用されてこなかった。しかし、近年の計算機の能力の向上と推定アルゴリズムの発展から、ベイズ統計に基づいた自由な統計モデリングが可能になり、健康心理学を含めた心理学全般でベイズ統計学の適用が広がってきている。本発表では、健康心理学領域における健康アセスメントにベイズ統計学を活用した研究知見を取りあげる。そのうえで、健康アセスメントにベイズ統計学を用いる利点を整理しつつ、さらなるベイズ統計学に基づいた応用について議論する。

3. 神経科学から見た新たな健康アセスメントとその評価

話題提供者 山本哲也（徳島大学）

神経科学研究の発展にともない、精神・神経疾患をはじめ、メンタルヘルスに関わる問題において、数多くの知見が蓄積されてきた。このような神経科学の手法を用いることは、問題の病態理解を促し、有効な介入方法や予防方法の開発につながることを期待される。そこで本発表では、神経科学的手法を用いた健康心理アセスメントに関わる研究知見を概観する。そして、これらのアセスメントに基づく応用方法の実践について議論を深めたい。

なお、本シンポジウムに関するすべての発表に関して、利益相反ならびに倫理的問題に関して言及すべきことはありません。

(SUZUKI Shin-ichi, TAKEBAYASHI Yoshitake, KUNISATO Yoshihiko, YAMAMOTO Tetsuya, SHIMAI Satoshi)